

医療現場の「ホント」に迫る！



埼玉民医連



医療生協さいたま

トトロのふるさと

HOMETOWN OF "TOTORO"

For medical students and residents

医療現場のリアル

50代男性、不当な解雇から
社会復帰したケース

研修医1年生から読者のみなさんへ

神谷稔Drインタビュー

トトロのふるさと*Friends

広島市へ平和学習FW

Human Rights

医療現場から見える 女性の 人権

困難を抱える女性に寄り添う医療の現場から
今見える風景を、芳賀先生に聞きました。

芳賀厚子

埼玉協同病院 産婦人科
医師



July

197

2023 07

©Saltama



医療現場から見える

女性の 人権

社会のあり方を考えて 人生を支える医療

社会的立場の弱い女性や外国人が困窮する社会とは、「人権」そのものが大切にされていないことの現れではないのか——。困難を抱える女性に寄り添う医療の現場から今見える風景を、芳賀先生に聞きました。

芳賀 厚子（医師） 埼玉協同病院産婦人科

コロナ禍で深まった孤立

今、コロナ禍で、孤独や貧困がより見えづらくなってきていると感じています。助けが必要なのに声を上げられない、どこに助けを求めていいのかわからないという状況が増えています。

最近出会ったのは、出産間近の妊娠さんのケースです。パートナーとの関係が悪化して実家に戻りましたが、家族からの暴力を受け逃げ出してきました。地域の保健センターからの紹介で診察すると、もうお腹も張っていて、切迫早産で即、入院に。赤ちゃんとの新しい生活が始まろうとしているのに、完全に行き場を失っていました。入院中にケースワーカーの協力を得て生活保護を申請し、住む場所を探して、

必要な生活用品や育児用品は病院職員に呼びかけて揃えることができました。無事赤ちゃんを出産し、新生活をスタートされています。生活費のために性風俗で働かざるを得ず、性感染症を罹った20代の方が受診したり、経済的な理由から妊婦検診を中断している方など、様々な困難を抱えていても保健センターから紹介されてくることもあります。コロナ禍で人間関係が絶たれ、誰にも相談できないまま人知れず困窮しているという印象があります。

難民認定に現れる 日本の人権感覚

埼玉協同病院のある埼玉県川口市は、人口60万のうち約4万人が外国人という、市町村の中で日本一外国人が多い自治体です（約6.5%、2020年調査）。中国やベトナム出身の方も多く住んでいますが、日本にいるクルド人の多くがこの地域で暮らしており、彼らはトルコでの迫害を逃れて難民認定を求めて日本にきています。日本での在留資格が得られないと入国管理局の施設に収監されることが原則です。しかし、数も多くコロナ禍の影響も

profile

1989	弘前大学 卒業
1989	埼玉協同病院 入職
1992	埼玉県立小児医療センター NICU
1992	東京大学附属病院分院産婦人科
1993	癌研究会付属病院 婦人科
1993	埼玉協同病院 産婦人科

あり、多くの方が「仮放免」として地域で暮らしています。「仮放免」では、就労が禁じられ、健康保険への加入もできず無保険状態です。生活は困窮し、必要な医療にもかかることができません。

当院ではクルド人の妊婦さんを診る機会が増えています。川口市は、保険証の有無にかかわらず母子手帳は発行されますが、妊婦検診が無料になるチケットは無保険の方には配布されません。妊娠に伴って生じる治療もすべて自費。また、分娩費用の助成は自治体によって差があり、助成がなければ1回のお産で約50万円、緊急の帝王切開となった場合には100万円を超える費用がかかります。

私たち婦人科スタッフは、お母さんと赤ちゃんが幸せになってほしいと仕事をしています。それなのに、保険に加入できない立場に追い込まれている人たちに、高額な請求をせざるを得ない現実があります。本当に心が痛いです。

6月には入管法が改悪といってよい形で強行採決されました。申請を3回以上すると強制送還対象となってしまいます。日本では難民認定数が極端に少なく欧米では年間数万人認定数に対し日本は2022年は202人です。日本の政策は、外国人の人権を保障するという

意識があまりにも低いと感じます。外国人の人権は、その国の「人権のバロメーター」と言われています。つまり、この国（政府）が外国人のみならず、国民の人権を尊重するという考えそのものが乏しいことの現れなのだと思います。

貧困や孤独を抱える妊婦さんや、女性たちの様々な問題も、すべての人の「健康で文化的な最低限の生活」、つまり人権を保障していく社会システムの不十分さであると思います。目の前の困っている人へ手を差し伸べることはもちろん大事です。それに加えてすべての人が幸福を追求できる、「人権」を保障する社会に変えていくという、根本へのアプローチにも私たちは取り組んでいく必要があると思います。

つながりの出発点 「子ども食堂」

地域の方と協力して、子ども食堂を始めて今年で7年目になります。これまでの医療活動を通して、困窮している子どもや、貧困の中で育ち助けを求められない女性をたくさん見てきました。だから、地域の中で困ったら

相談できるような環境を作りたい、それが子ども食堂を始めた理由です。地域住民の方や、病院の職員、ワーカーズコープ※の皆さんの協力を得て活動しています。

月に1回の開催で、コロナ前は多い時には100人くらいの参加がありました。食事の提供だけでなく、一緒に工作をしたり、腕相撲大会をやったり、とても盛り上がり、子どもたちが本当に楽しく遊ぶ場になっていました。コロナ禍を機に一時中止を余儀なくされましたが、困っている家庭はこの状況でなおさら困っているはずと、支援物資の配布から



Next page

※ワーカーズコープ：働く人々と地域住民が出資し地域での仕事を自分たちで創出する労働者協同組合。



スタートし、お弁当や工作キットを渡すスタイルで活動を再開しています。

コロナ禍前に比べれば、参加者は半数程度にとどまっていますが、困窮している人の割合は増えていると感じます。生活保護受給者や一人親家庭向けの優待券を利用する人が全体の1/3を占めています。

ある時、離婚したばかりの一人親家庭の親子が食堂に来るようになりました。初めは親も子どもげっそりしていましたが、何か月経つうちに、来るたびにだんだん元気になっていく。月1回の小さな関わりですが、子どもの笑顔が増えていくのを見ることは、この上ない喜びです。

この場に来るそれぞれが「人とのつながり」を築きながら、一緒に子ども食堂を作っていく——そういう活動をめざして続けていきたいと思っています。

人生を支える医療を

私は医学生の際に、障害児のリハビリテーションに関わったことをきっかけに、子どもを産み・育てていく親に関心を持ち、産婦人

科の道を選びました。妊娠・出産から、婦人科疾患・悪性腫瘍や更年期障害の治療、時には看取りまで、産婦人科はまさに女性の一生に寄り添い・支える、やりがいのある仕事です。

コロナ禍は、一人親家庭や非正規雇用など社会的に弱い立場の女性たちをいとも簡単に生活困窮へと陥れました。そして、「困窮は自己責任である」という風潮の中で、誰にも相談できずに問題を抱え込んでいる人が多くいます。妊娠中に困ってもどこにも相談できない、育児で頼る人が誰もいないなど、私は医療者として、そういう困難を抱えた人を支えたいと思っています。すっきりと解決できないことも時にはあるかもしれないけれど、関わった人と一緒に悩み、社会のあり方を考えながら、人生を支えていくような医療。一方的な支援でなく、伴走型の支援をしていきたいと思っています。そういう関わりこそが、私がめざすものであるという思いを、医療の現場に立ち続ける中で強くしています。

医師を志す若者へ伝えたいこと

医療従事者、特に医学部をめざす人たちは、

経済的・社会的に恵まれている環境の人が多いかもしれません。医学部に合格し、その後も長い時間をかけて勉強を重ねていく、そこには並大抵でない努力があります。でも決して自分だけの頑張りで辿り着いたわけではなく、それを支えてくれた人たちがいるからこそ医師になるための勉強ができるということ忘れないでください。

そういう環境が得られなかった人も世の中にはたくさんいます。その中で、自分の果たすべき役割を真剣に考えてほしい。自分の人生の中でも医療の場でも、自分が与えられた恩恵を社会に還元していけるように努力してください。



医療現場のリアル ～SDH・いのちと向き合う私たち～

50代男性、不当な解雇から社会復帰したケース

Case study [医療現場での事例]

Uさんは60代の独身男性。無料低額診療制度を使って腹痛を診てほしいと来院されました。診察の結果、胃の病気である可能性が高いと推察され、胃部内視鏡検査を実施することとなりました。診察後にUさんから受診に至る経過を聞きました。Uさんは妻と一緒に自営業で品物運送の仕事をしていました。40代で妻をがんで亡くすと、憔悴したUさんは仕事に身が入らなくなり、会社を畳んで運送会社に就職しました。しかし、そこは長時間労働が常態化しているブラック企業でした。50代になり長時間労働が体力的に厳しくなり、ストレスから胃の痛みも頻繁にできるようになりました。自分の体がもたないと感じたUさんは転職を同僚に相談したところ、それが社長に伝わり自己都合退職扱いで事実上の解雇をされてしまいました。退職後に就職活動をすぐに始めましたが上手くいかず、貯金もなくなり電気とガスが止まりました。胃の痛みが強くなり、役所に相談したところ、無料定額診療をしている医療機関を紹介され受診に至ったのでした。受診時の所持金は約2,000円。近日中に生活保護申請を行うことを確認し、食事数日も摂れていなかったため、フードパントリーで食材支援を行いました。その後、Uさんは胃の内視鏡検査を実施する前に自宅で吐血。

救急車を呼ぶことで医療費がかかることを危惧したUさんは当院に電話で血を吐いたことを相談し、職員から救急車で来院を促され緊急入院となりました。入院後の検査で出血性胃潰瘍と判明しました。入院後、生活保護の申請が通り医療費がかからなくなったことで改めて治療に専念したUさんは、退院後も治療を続けほとんどして再就職先が見つかり社会復帰しました。

※無料低額診療事業：収入がない、収入があっても一定の基準より下回る人を対象に無料または低額で医療を提供する制度。
※フードパントリー：個人・企業より食材を寄付をしてもらい経済的状況からその日食べるものに困っている人へ食材を支援する取り組み。

第2種社会福祉事業として本事業を開始してから、9年が経過しました。2015年～17年度の3年間に利用した707事例のうち14事例をまとめ、2019年5月に「いのちと向き合う私たち～無料低額診療事業からみえてきたこと～」を発行しました。



この事例から、みなさんに伝えたいこと

ー現場に立つ医師よりー

内科外来をやっていると、たまに「医療にほとんどかかったことがない中高年男性」を診ることがあります。そういう人に検査をすると癌が見つかることが多い、というのは臨床医の実感だと思います。10年以上健診を受けていなかったり、症状があっても仕事が忙しくて受診できなかったという場合が多いです。おそらくその背景には、事例のような長時間労働のブラック企業や不当解雇、自営業で健診をしていない、という働き方があるのだと思います。すぐに受診していれば早期発見、早期治療につながったのに、我慢してしまったために、働けなくなったり、病気で亡くなってしまう患者さんを何人もみてきました。事例の患者さんは、救急車を呼ぶとお金がかかると思って、わざわざ病院に電話をかけてきたそうです。病院が患者さんにとって相談できる場所、安心して話せる場所になっていることがとても大切なと思います。特に体調が悪くなくても、ふらっと立ち寄ってコーヒーを飲んだり、ベンチで休んだりするような空間が病院や診療所にあると、地域で暮らす人の生活が少し豊かになるのかなと思います。

SDHとは？

健康は遺伝子や生活習慣などの生物学的要因だけで決まるのではなく、成育歴・労働環境・所得・人と人のつながりなどの社会的背景も関与しており、これらを「健康の社会的決定要因 (SDH = Social Determinants of Health)」といいます。医療生協さいたまでは、SDHに着目したHPH活動や社会保険拡充のための活動を通じ、健康格差の縮小を目指しています。

原因不明の体の不調には、背景に困難な状況が隠れていることも。医療生協さいたまでは、本人の気持ちに寄り添い、ときには医療を超えた支援も実施しています。

谷垣 親禾文

- ①お茶の水女子大学付属高校／琉球大学
- ②部活はもちろんですが、日々の満員電車でいかに快適に過ごせるか。
- ③1浪したので現役の時に手薄だった数学と科学の問題演習ととにかく復習を大切にしました。



飯野 哲瑠

- ①開智中高一貫部／獨協医科大学
- ②友達と遊んでばかりでした。
- ③受験が終わるまでの期間は継続することが大変だったので、休憩と勉強のメリハリをつけて頑張っていました。



仲谷 美穂

- ①光塩女子学院／東京医科大学
- ②いかに充実した休み時間をすごすかの研究
- ③できない問題をくり返して復習すること(泣)



NEWFACE

【新人研修医紹介】

研修医1年生!! から
読者のみなさんへ

医学生のみなさんへ

私たち大学時代は
こんな学生でした

- ①出身高校／大学
- ②大学時代の部活、その他熱中したこと
- ③研修先選び、こんなことを大事にしました！

北島 奏愛

- ①鹿児島中央高校／新潟大学
- ②水泳部
- ③教育体制と雰囲気の良いことを大事にしました。

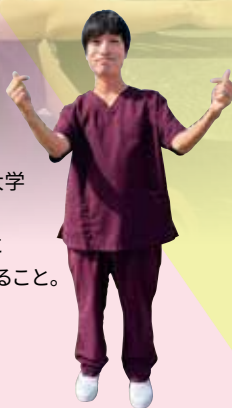


武藤 寛亨

- ①太田高校／新潟大学
- ②部活は無所属。アルバイトをたくさんしていました。
- ③部病院の雰囲気。研修プログラム。

橋本 大輝

- ①開智高校／山形大学
- ②弓道部
- ③研修医が主体的に業務にあたっていること。病院の雰囲気。



薬 英昭

- ①西武文理学園／順天堂大学
- ②サッカー部
- ③病院全体の雰囲気。研修医を大切にしているか。



高校生のみなさんへ

私たち高校時代は
こんな生徒でした

- ①出身高校／大学
- ②高校時代に熱中したこと
- ③医学部受験、これが一番大変だった！



Kamiya Minoru

神谷 稔 Dr

前編

インタビュー

「僕なんかで良いんですか」
～医学部を決意するまで～

高校時代は進路を決めかねていて、自分の行く道はどこか悩みながら卒業後は石川県の金沢にある新聞関係の仕事をしていました。ある日突然、熊谷小児診療所（現：熊谷生協病院）の小林盈蔵（こばやしみつぞう）先生が訪ねて来て「医者をやってくれないか」と言ってきたんです。小林先生とは元々、僕の父親と一緒に熊谷小児診療所を立ち上げた仲間の一人だった関係で僕も少なからず交流がありました。小林先生からは「子どもが病気をするってことは、ご家庭の生活状態、両親の働いている状態、友達関係、地域がどうなっているか、そこまで切り込まないと本当の医療じゃな

現在老人保健施設みぬまで施設長として働いている神谷先生。埼玉協同病院の産婦人科開設に尽力し、医療生協さいたまの理事長としても活躍した先生に医師を目指し、医学部を経て、埼玉協同病院産婦人科創設期に関わるお話を前後編に分けて掲載します。2023年8月に新しくふれあい生協病院ができるからこそこの話から医学生をはじめとした医療系学生、医療者、患者さん、地域住民のみんなが集まってもらいたいとお話くださいました。

い」って口癖のように聞いていたので、そんな医師になれるかわからないから「医者になってほしい」と言われても「僕なんかでいいんですか」って素直に話しました。でも医者にしたかったけどお金がなかった父親の意を汲んだ小林先生がそうやって僕に言ってくれ、奨学生として金銭的支援ももらいながら新潟大学に行きました。

「医者を上げる」時代

僕が高校生当時、熊谷や秩父はまだ医療機関はないし、お医者さんに診てもらうお金もみんなないから、お医者さんに診てもらうことを「医者を上げる」と言いました。上げるとは家の畳の上に上がってもらうこと。お医者さんが患者さんの家に行くというのは亡くなった時、つまり看取りのために行くということでした。だからこそ、医学生時代に大井医院（現：大井協同診療所）

の大島慶一郎（おおしまけいいちろう）先生が「患者の家は病室、そこに至る道は長い廊下」と往診をいとわない姿勢で診療を行っていたのは強烈なインパクトを残しました。

学生同士で議論
することの大切さ

小林先生から誘われて奨学生だったのもあって、医学生時代には埼玉だけでなく全国の民医連にとって医師体制の困難をどう解決するかを考えました。意見が対立する仲間もいましたけど、議論をして意見を合わせてきました。当時の学生運動の中で対立していた学生も後年医師になったときに医師同士助けてもらったこともありました。若い医学生や医師にもそうやっている人々と話したりしながら人脈をつくることを大切にしてもらいたいです。

Book review

【ブックレビュー】

「芝園団地に住んでます

住民の半分が外国人になったとき何が起きるか」

大島 隆 著

■芝園団地は埼玉県川口市にある日本住宅公団（現UR＝独立行政法人都市再生機構）が1970年代に建てた団地だ。この団地は住民の半分を中国人が占めているということだ。ここに住んでいる中国人の多くはシステムエンジニアなどのIT関連企業に勤めるいわゆる中国企業のエリートで、一時的な住まいとしてこの団地に住んでいる。そのため住民の入れ替わりが激しく、ゴミ出しや団地の共有エリアの利用などルールを理解できていない中国人との生活トラブルから嫌悪感が日本人住民の中で広がっている。これは国籍が違うことで言語や文化の壁がさらにその問題を深刻化させているということにある。この本を読んで自分自身がその団地に住んでいたらどうだろうかと考えさせられる。表向きは国際化の時代に国籍で一律に差別的な対応や態度は間違っていると言える。しかし、住民の中には自分たち

の住み慣れた場所を他所から来た中国人に荒らされていると感じている日本人住民がおり、自分が同じ立場ならどうかという日本人住民の感情を一概に否定はできなかった。トラブルの当事者は自分たちと国籍が違う。そういうことが続いたらいつかもっと差別的な感情は生まれないだろうか。逆に自分が見知らぬ国に住むときに住民たちからそういった目で向けられたらどうだろうか。萎縮、あるいは反抗心を燃やしてしまうかもしれない。この団地でも双方からこの問題を解決するための交流の場をつくる芝園かけはしプロジェクトに取り組んでいる人たちがいる。本著ではそれぞれの立場から同じ団地で暮らす事についての聞き取りを行いながら住民の「感情」に焦点を当てている。今、日本に多くの人種・国籍の人々がより良く住むことについて考えることができる一冊なのでぜひお勧めしたい。



Information



埼玉協同病院見学ご案内

8/14(月)～8/25(金)は埼玉協同病院
リニューアルおよび隣接するふれあい
生協病院の新規開院に伴い埼玉協同病
院見学受け入れができません。見学を
ご検討の方はご注意ください。



医学生夏の実習(学年問わず)

医学部入学前に病院・診療所・介護施
設で医師や多職種の仕事を見てみま
せんか？

ホームページよりお申込みください。

HP・URL <https://www.skymet.jp>



トトロのふるさと Webアンケート

ご協力頂いた方には先着で
5名様にQUOカード(500円分)
をプレゼントいたします。
(応募〆切:8/31回答分まで。
プレゼント発送前にメール
にてお知らせいたします)



先着で
QUOカード
プレゼント!



トトロのふるさと Friends

埼玉の医療を考える会



2023年3月に広島県広島市へ平和学習FWを医学生5名の参加で開催しました。
FWでは広島平和記念公園と周辺の碑巡りガイドツアーと平和記念資料館の見学
を行い、被爆者講話を聞きました。

広島平和記念公園では「原爆ドーム」、「爆心地説明の碑」、「原爆の子の像」、「韓
国人原爆犠牲者慰霊碑」などをガイドスタッフの方に一つ一つ説明してもらいま
した。当日は公園に桜が綺麗に咲いていて、原爆が落とされた当時の様子を写真
や生存者が描いた絵などを見ながら聴くと対照的な光景でした。

平和記念資料館では原爆投下時刻で止まった時計や原爆が落とされて家屋が
倒壊していく様子を再現した映像、被爆した人々が着ていた服や持物がかるうじ
て原型を残した状態で展示されており、今も原子力爆弾の破壊力を人々に物語っ
ていました。

被爆者講話ではお母さまの胎内で被爆し、戦後に生まれた畑口寛さんから原爆
を落としたアメリカを許せない気持ちと同時に音楽文化などに惹かれていたこ
と。被爆者であることで同情されたくないと言えずに生きてきたこと。被爆者
であることを語るようになってからも、まだ迷う気持ちをもって揺れ動いている
こと。最後に苦しみ乗り越えて平和を願う「和解の精神」をもって今被爆者・
広島市民は原爆と向き合っているということを教えていただきました。

参加学生からは感想として「日本も戦争が起こるかもしれないという不安があ
る中、日本も本当の意味で平和でないとと言えると思う。だからこそ本当に戦争に
しないさせないことが大事だと思った」「日本とアメリカで国という立場は違え
ど、医療者という職業がこの原爆にすべて(原爆の開
発・研究、診療、被害者支援、戦争をしない活動)密に
絡んでおり、戦争や平和について、医療者になる自分
たちも無関係でいられないと思った」など出ました。

埼玉民医連ではこのように医療や社会問題
について医学生・高校生の皆さんが学ぶため
のイベントを企画しています。皆さんも興味
のあるテーマがありましたら是非ご参加くだ
さい。



医師を志すみなさんへ

奨学生募集

お申込・お問い合わせ先

埼玉民医連・医療生協さいたま
埼玉協同病院 教育研修センター

TEL 048-296-5822



SKYMET

<https://www.skymet.jp/>



私たちは学ぶみなさんの力になりたい。

奨学生活動は、みなさんの医学生としての成長、医学生生活の充実にきっと役
にたちます。そして大学では学べない学びが沢山あります。奨学生になって、
学び、考え、私たちと一緒にこれからの埼玉の医療を支えていきましょう。

貸与金額
月額
80,000円

特別貸付・
入学時特別貸付
あり

返済
免除制度
あり

医療現場の「ホント」に迫る!

トトロのふるさと

HOMETOWN OF "TOTORO"

July

197

2023 07

発行／埼玉民医連

医療生協さいたま

埼玉協同病院 教育研修センター <https://www.skymet.jp/>

〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1317番地

TEL:048-296-5822(直通) MAIL: skymet@mcp-saitama.or.jp